

DLA「読む」を活用した読書指導の実践

—日本語教室と家庭の連携を通して—

伊藤敦子（愛知県小牧市立大城小学校）

1. 実践の場の特徴

本校は愛知県の北東部に位置し、在籍児童の約15%を、外国にルーツ（主に、ブラジル・ボリビア・ペルーといった南米の子ども）のある子どもが占めている。子どものほとんどが日本生まれで、日常会話には困らない子どもが多い。しかし、在籍学級での授業を理解することは難しく、日本語教室で取り出し指導を受けている。また、DLAの語彙チェックや「読む」を行うと、日本語も母語も語彙数が少なく、読解力・読字力が低い傾向にある。

一方、家庭では保護者が仕事で忙しいため、子どもとじっくり話す時間がとりにくい状況がある。そのため、会話の内容は指示や叱責が多く、豊かな言語環境で育てられない悩みがある。さらに、家庭の読書環境も十分ではなく、本が無い家庭やあるのは聖書だけという家庭が多い。そのため、家で読書するまたは読み聞かせをしてもらった経験のある子どもは、ほとんどいない。

2. 実践の目標

上記の実態をふまえて、児童の語彙力・読む力を伸ばすための一つの方法として、読書活動を学校と家庭が連携して行うことで、児童の語彙力・読む力（読解力と読字力）を伸ばすことができるのではないかと考えた。

3. 実践の内容とその過程

3.1 読書活動1時間の流れ

DLA「読む」の手法を取り入れて、以下のように実施した。

- ・読む…子どものレベルに合った本と読み方（自分で読むまたは読み聞かせ）で、本を読む。
- ・再話…読んだ本の再話を行う。再話ではDLA「読む」の手法を活用する。
子どもが話すことを、「待ち・認め・ほめる」ことでやる気を喚起させて、子どもたちが「読んだ!」「できた!」「もっと!」と思える場となるように努める。
- ・書く…実施学年に合わせて、話したあらすじや感想を書く。
その際には、DLA「書く」の手法も取り入れる。
- ・アルバムに貼る…成果物として読書アルバムを作成する。
活動の最後には、アルバムに書いた用紙や写真を貼り、まわりをシールやマスキングテープで飾り付ける。

3.2 実践の過程

平成26年度から家庭と連携した読書活動を行うための読書環境づくりと日本語教室での読書活動を始める。初めに読書環境を整え、1時間の読書活動の流れを設定した。日本語教室に読書コーナーを設置して、DLAから分かる児童の読書レベルに合った読みたくなるような本を選んで並べた。また、学校司書に相談にのってもらい、随時様々な種類の本や子どもが読みたくなる本が、本棚に並ぶようにした。

そして、1時間の読書活動の流れは、児童の読書レベルに合った本の読み聞かせを行い、その

後DLA「読む」で行われている再話を実施。読書の成果物として読書アルバムを作成して、記録とコメントが残るようにした。

平成26年度は1年生を対象に行い、それからは少しずつ学年の幅を広げていく方針で臨んだ。初めは、再話後に書くことを敬遠していた子どもたちが、だんだん「感想書いてもいい?」「思ったこと書かね。」と言い出すようになっていった。記録用紙に「〇〇がおもしろかったよ。」「すごくかわいかった。」というように、簡単な感想を記入できるようになっていった。また、休み時間には、読書コーナーに集まり本を読んだりお互いに読み聞かせをしたりする姿が、見られるようになっていった。

平成27年度、28年度も活動は続けたが、日本語指導の担当者が入れ替わり再話できる教師が減ったため、学年の幅をひろげることが困難な状況が続いた。定期的に週1回ずつ読書を行うことはできなかったが、読書の時間は絶やさず、不定期ながら月に1回は行うことができた。

平成29年度は、担当者の研修を年度当初に行い、読書活動に臨んだ。学年ごとに週1回は必ず読書の時間を確保して、子どものレベルに合った本を読み聞かせまたは一人読みさせて再話、そして書くという活動を、継続して行うようにした。書く内容は、レベルに合わせて調整した。低学年はイラストや簡単な文で感想を書く。中学年はあらすじや感想を書く。高学年は要約や作者の伝えたいことについて書けるように支援していった。

また、保護者とは個人懇談会・日本語学級懇談会等で、豊かな母語による会話・母語による本の読み聞かせの大切さを伝え、そのためには読書が一番良いことを話してきた。具体的な会話の内容についても例を出して話したりした。

4. 結果と考察

今年度定期的に読書活動を行うようになってから、一番語彙も少なく話すことも苦手だった2年生の児童は、読み聞かせから自分で本を選んで読むようになってきた。また、再話のときには順序を意識して、会話の初めには「まず」「初めに」という言葉を使いだし「次に」と話を展開させ、話の結末では「最後に」「終わりには」というように、話せるようになってきている。

懇談会では、保護者から①子どもが本屋をさがすようになったこと②本を自分で選んで購入するようになってきたこと③家に本が増え家族で読んだ本について話し合うようになったこと④会話が豊かになってきたことを聴くことができた。今後も家庭と連携しながら、読書活動を継続していきたい。

子どもの読書アルバム

